

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	3 ネットワークによる青少年の育成	② 施策番号	7606
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 青少年、子どもの健全育成		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	生涯学習課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	青少年
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	青少年と様々な年代の市民との交流を促進し、協働や共感の輪を広げていく。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	青少年を取り巻く環境はインターネットの普及等により、生活習慣の乱れや不適切な情報を入手しやすい状況にあり、思わぬトラブルに巻き込まれるなど複雑化している。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 少年非行の現状(大阪府下) 計算式	回	活動により、啓発活動や青少年との交流を行うことで非行の抑制をする。
② 計算式		
③ 計算式		

指標名	単位	目標値	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
① 少年非行の現状(大阪府下)	回	目標値						
		実績値	2,910	2,488	2,311	—	—	
		達成率						
②		目標値						
		実績値						
		達成率						
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性
1	青少年問題協議会運営事業	少年非行の現状(大阪府下)	件	2,488	2,311	—	567	438	568	A	ア	○
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						567	438	568			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	青少年・子どもの健全育成のため、様々な公的機関、団体が協力し見守ることは重要であ
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	泉南警察署との連携により、協議会の活動のすべてに、泉南市から少年補導員さんが参加している。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	適切であると考えている。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	生涯学習課で所管する業務の範囲内において適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	今後も重点的に進めるべき施策であると考えている。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	青少年を取り巻く問題は複雑多岐にわたってきている。今後、様々な問題に対して柔軟に対応するために、より綿密な連絡調整が必要である。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	青少年を取り巻く問題点の抽出。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	各団体との関係をより緊密にする。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	青少年問題につながる、すべての子どもを見守る体制づくりの検討。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	地域や関係機関の連携により非行を未然に防止する青少年健全育成に必要な施策として、引き続き取組や展開を図りたい。 また、ネットワークづくりの観点から活動内容の積極的広報や関連部署との連携についての検討を進められたい。	